

## 実施概要（多文化共生）



### 1. 日時

令和7年9月5日（金） 14:00～17:00

### 2. 視察先/分類

大阪茨木モスク、豊川いのち・愛・ゆめセンター/他分野

### 3. 参加者

4名（引率：茨木市能勢 秋本、SPS榛葉）

### 4. 視察内容

#### 【選定理由】

茨木市内に住む多国籍の方のライフスタイルや地域との関わりなど興味深く関わりをつくりたかったため。

#### 【当日の様子】

両施設の成り立ちや経緯、地域に根付いたイベントや運営について共有。

#### 【視察対応】

- ・大阪茨木モスク代表 ショフィクル様
- ・豊川いのち・愛・ゆめセンター館長大石様、今田様

### 5. 記録写真



## スケジュール



時間	内容	進行
13:30	参加者集合・事前説明	茨木市
14:00	モスクへ移動	
14:10	モスクにてイスラム教の礼拝、 慣習や運営について案内・質疑応答	ショフィクル様
15:30	豊川いのち愛ゆめセンターの館内案内 事業について質疑応答	大石様・今田様
16:45	振り返り	茨木市・SPS
17:00	終了	

## 振り返り（一部抜粋）

### <新たな気づきや発見>

- ・つながりが地脈のように、時間をかけてできていることが良く分かった。イベントを通してお互いを理解するのも地道な日々の活動が大切だと思った。
- ・他分野の活動に対して、こちらからアクションを起こし共生を促すべきという考えを持っていたが、積極的にイベントやマルシェを開催しており「受け入れる」という考え（姿勢）を改めなければいけないと思った。
- ・自分からつながっていくことが大事、つながる＝助け合う、お互いさまの意識
- ・文化が異なる宗教が異なるからといって壁をつくらずに、認め合おうという意識が根付いていることに感動した。
- ・自分たちの文化を再度見つめなおすきっかけになったし、その良さも気づけた。

### <文化芸術と接点を持ってそうなポイント・あるいは実践している場の良い点>

- ・モスクで開かれている交流会に参加してみたいと思う。
- ・解釈は自由で良い、誰でも参加ができること。
- ・モスクでの礼拝を基に、宗教の太陽と教えて（声や音）の関係を映像作品や体験型にできるとおもしろそう。
- ・アラビア語書道の展示

## 実施概要（福祉・教育）



### 1. 日時

令和7年9月13日（土） 14:00～17:00

### 2. 視察先/分類

maru（総持寺いのち・愛・ゆめセンター） / 他分野連携事例

### 3. 参加者

5名（引率：茨木市松本 秋本、SPS筑後）

### 4. 視察内容

#### 【選定理由】

One Art Project様の活動（maru）に興味を持ったため。

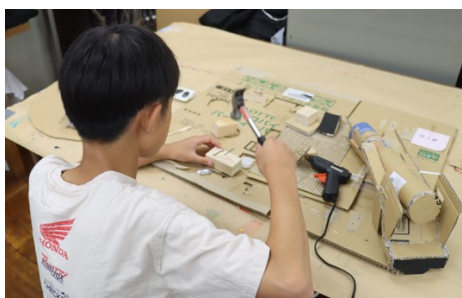
#### 【当日の様子】

小学生を対象に、障がいがある・ない問わず子どもたちが自由に創作活動ができる環境を提供。視察では創作活動中の様子の見学と稲垣様より、活動背景や子どもたちが集中して製作するための環境の整備などについてお話を伺った。

#### 【視察対応】

One Art Project 稲垣様

### 5. 記録写真



## スケジュール



時間	内容	進行
9:30	市・SPS集合	茨木市
9:45	参加者集合	
10:00	実習室にて活動説明・質疑応答	One Art Project 稲垣様
10:15	maru活動の見学	
11:00	参加者で話し合い	茨木市・SPS
11:30	終了	

## 振り返り（一部抜粋）

### <新たな気づきや発見>

- ・子どもたちが思い思いに取り組んでいるのを初めてみた。声かけの仕方も参考になった。
- ・色々な道具をためすことで身体的な感覚を試しているように見えた。
- ・子どもたちが楽しく創作活動をしている姿を見てうれしくなった。「子どもたちの自由な発想を育てる」というmaruのコンセプトが素晴らしかった。
- ・学校の美術の時間のように何かを作るのが目的ではなく、自由な発想を育む場（フラットな場）と感じた。

### <文化芸術と接点を持つようなポイント・あるいは実践している場の良い点>

- ・文化芸術が色々な人をつながぐ役割になる。
- ・自由に創作することで子どもたちの生きる力がついていくように思う。
- ・「文化芸術って何？」ということを見ると。人が作り出したものであれば何でもOKなのでは。形として完成させるのか、プロセスを楽しむのか。
- ・音楽でも、このような展開ができる具体策があれば良いと思った。子ども（＝教育）に対しての取組みは、素晴らしいと思った。

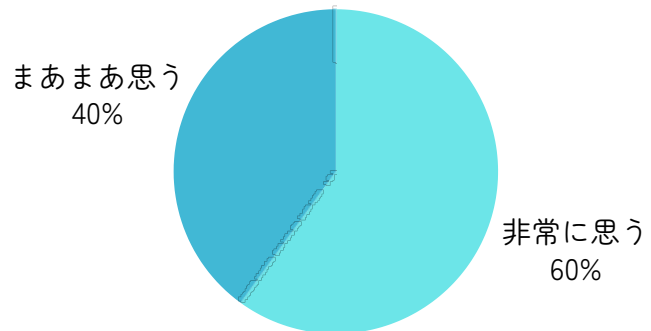
# アンケート（12名）

（全体18名参加）



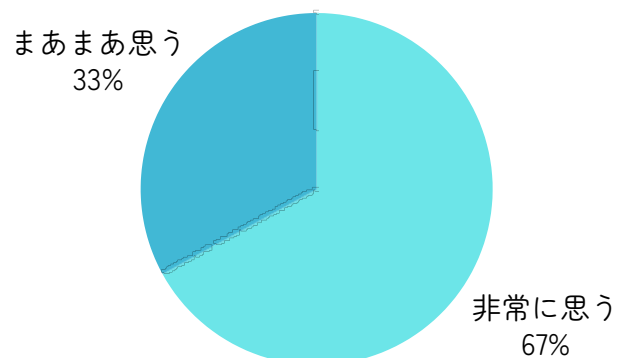
## 1. 文化芸術活動に対して、以前より「関わりたい」と思う気持ちが高まりましたか？

- 非常に思う...7名
- まあまあ思う...5名
- 少し思う...0名
- 特に変わらない...0名



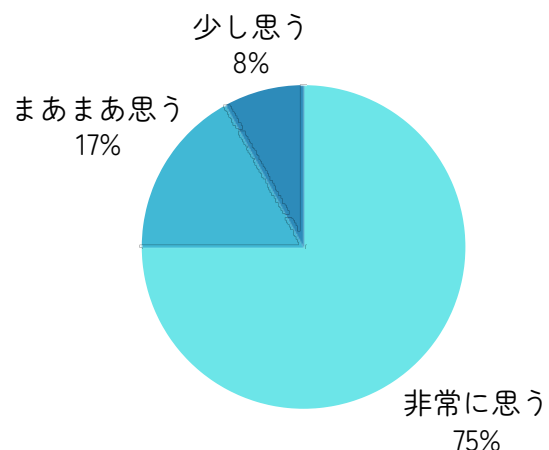
## 2. 地域社会に貢献したいという気持ちは高まりましたか？

- 非常に思う...8名
- まあまあ思う...4名
- 少し思う...0名
- 特に変わらない...0名



## 3. 今回の活動を通して、新しい出会いやつながりを感じましたか？

- 非常に思う...9名
- まあまあ思う...2名
- 少し思う...1名
- 特に変わらない...0名



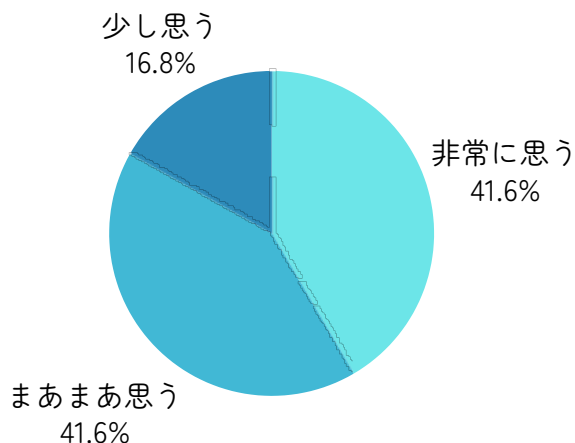
## アンケート（12名）

（全体18名参加）



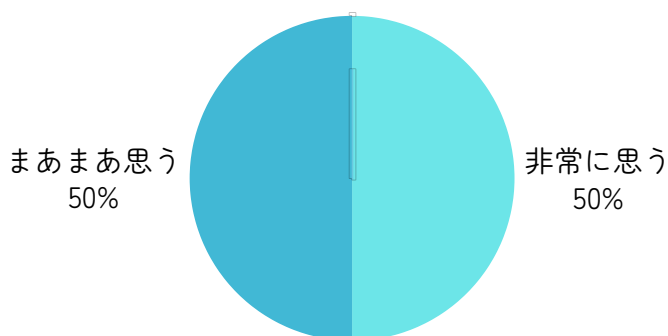
### 4. 新しいことへの好奇心や、アイデアを得ることができましたか？

- 非常に思う...5名
- まあまあ思う...5名
- 少し思う...2名
- 特に変わらない...0名



### 5. この活動について、家族や友人など周りの人に紹介したいと思いますか？

- 非常に思う...6名
- まあまあ思う...6名
- 少し思う...0名
- 特に変わらない...0名



印象に残ったキーワード、感じたこと・運営に関するご要望などが

### 6. あれば自由にご記入ください。（一部抜粋）

- 福祉の分野が遠い存在に感じていたが、こうして接点を持つことにより、混ざり合うことができる可能性に気付かされた。
- これまで、自分が活動同士を繋げないといけないという気張った気持ちがありましたが、実際に活動されている場を拝見させていただき、もう少し気楽に考えても良いかもしれないと思いました。
- 「重層的支援(体制整備)事業」と茨木モスクのイマームとショフィクフルさんの「隣人」へのふるまい方が重なることが多くて、これから活動する上で良い指針となりそうです。
- 福祉において、「表現」＝自分自身であるという考え方のもと、表現者である利用者さんを大切に作る姿勢が印象的でした。



令和7年度茨木市主催

# つどい、つながる 文化の会議

第4回

実施報告書

令和7年9月19日

茨木市

サントリーパブリシティサービス

# 目次



1. 私たちのゴール...P.47

---

2. 実施概要...P.48

---

3. スケジュール...P.49

---

4. イントロダクション...P.50

---

5. ディスカッションパート...P.50

---

6. アンケート...P.52

---

# 私たちのゴール



## 最終ゴール

文化芸術をきっかけに、誰一人取り残さない社会をつくる。他の団体や他者と積極的につながり、つなげる役割「=市民アートコーディネーター」を担う



## 今年度のゴール

市民アートコーディネーターとして必要なスキルや関係性の築き方を学び、文化芸術×他分野の取組みを知ることで他者や他団体とつながるアイデアを考える



## 第4回のゴール

感じたことを言葉にする

# 実施概要



## 1. 日時

令和7年9月13日（土）14:00～16:30（13:50開場）

## 2. 場所

おにクル7階 会議室1

## 3. 参加者

参加者計18名

出席10名 欠席8名

## 4. 運営

企画運営：茨木市、SPS

オブザーバー1名：茨木市文化振興財団